

水分から、飲み込むまで確認…

室蘭太平洋病院（白鳥台、印宮朗院長）は15日、職員を対象にした「看護補助者研修」を院内で開いた。介護福祉士やケアワーカーら約10人が参加し、医療制度の概要や食事介助などについて理解を深めた。（浪越崇宏）

室蘭太平洋病院 看護補助者研修



食事介助の実習に臨む研修参加者ら

食事介助ポイント学ぶ

研修は、看護補助者として必要な知識や技術習得に向けて毎年実施している。今年は9月に始まり来年1月までに計5回の開催を予定している。

15日の研修は、平上健一事務長らが講師を務めた。医療保険制度や保険診療の概要のほか、個人情報保護の重要性を解説。急性期や慢性期など病院それぞれの機能や役割に加え、同病院の理念や方針を示した上で「太平洋病院を選んで良かったと思ってもらえる医療や看護を提供することが必要」と述べた。

食事介助のテーマでは、院内看護師が食べ物を確認してから飲み込むまでの「摂食」について説明。温度や明るさに配慮し「安心しておいしく食事してもらう環境づくりも大切」と強調。姿勢を安定させる、水分から介助を始める、摂取量を確認するといったポイントを伝えた。実技演習では、軟らかい食感やとろみのある介護食の食事体験や食事介助を行った。参加者は患者役と補助者に分かれ「おいしいですか」「次は何を食べますか」などと声をかけながら食事を口元に運んでいた。